

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 高橋 孝郎 埼玉医科大学国際医療センター 支持医療科 教授

研究要旨

分担した研究項目: 高齢がん患者の緩和医療

高齢者社会に突入しているにもかかわらず、高齢者のがん診療について、不明な点が多い。がん診療に必要な不可欠な緩和ケアについても同様、高齢者に焦点を絞った問題点を明らかにしている研究は少ない。何が問題点であるかも不明であるため、まずは、文献的調査や専門家の意見をきいた。

それをもとに、問題提起するため医療者むけ研修会を開催した。また、高齢者がん診療指針のもととなる、「高齢者がん医療 Q&A」の総論(医療経済総論)を執筆した。

A. 研究目的

高齢者のがん診療における、診療指針を策定するために高齢者がん患者にたいして行う緩和ケアについて、高齢者特有の問題は何であるか調査する。

B. 研究方法

Pubmed にて”older adults” “palliative care” cancer などを検索語として検索 UpToDate や NCCN ガイドラインにて同様の検索を行い、高齢者がん診療における緩和ケアの問題となっている点を抽出する。

高齢者がん医療協議会の設立に関与し、研修会や、公開討論会に出席することで、高齢者の緩和ケアについて理解を深める。

C. 研究結果

Pubmed にて”older adults” “palliative care” cancer を検索語として検索すると、134 件がヒットした。

2017 年では 13 件で 2018 年に 32 件と増えているが、世界レベルにおいても、まだまだ研究がすすんでいないことがうかがわれた。

UpToDate では、oncology としての高齢者を対象とした緩和ケアの章立てはなかった。NCCN ガイドライン older adult oncology においても緩和ケアの章立てはなかった。

UpToDate では、oncology としての高齢者を対象とした緩和ケアの章立てはなかった。NCCN ガイドライン older adult oncology においても緩和ケアの章立てはなかった。

D. 考察

高齢者がん患者の緩和ケアについては、まだまだ研究が進んでいないことがうかがわれた。

そもそも、高齢者自体が緩和ケアの対象であり、エンドオブライフケアの対象でさえある場合がある。

がん診療は多かれ少なかれ侵襲をともなう治療であるので、治療の施行には緩和ケアの同時進行が必要であることをオンコロジストがよく理解することも重要と思われた。

E. 結論

高齢がん患者を対象とした緩和ケアの研究はまだ少ない。

オンコロジストは、老年医学の知識に基づいてがん治療を組み立て、緩和ケアも同時進行させることが必要ではないか。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

「がん専門医療人材養成プラン」関東がんプロのインテンシブ短期コースで、包括的ライフステージサポート医療人養成コースを企画し、2019年3月2日に埼玉医大日高キャンパス保健医療学部講義室において研修会を開催した。「高齢がん患者の診断、治療」について講義を行った。「高齢者がん医療 Q&A」の総論(医療経済総論)を執筆(日本がんサポーターケア学会ホームページに up 予定)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし